

## 我が校の強み弱み分析・評価シート

### 調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 【結果について】

#### 正答率より

- ・今年度は、国語科、算数科、理科、児童質問紙で調査が行われました。国語科、算数科、理科とも、全国より平均正答率が高い結果でした。
- ・国語科では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」と5つの項目で、全国平均を上回る正答率となりました。しかし、「読むこと」の項目においては、平均正答率が全国平均より低い結果となっています。また、問題形式別に見ると、「選択式」「短答式」では全国平均を上回っているものの、「記述式」では全国平均よりやや低い結果となりました。
- ・算数科では、全ての項目において、全国平均を上回っています。特に、「図形領域」「データの活用領域」においては、全国平均より5%以上高い正答率となっています。
- ・理科では、全ての項目において、全国平均値を上回っています。特に、「エネルギー」を柱とする領域については、全国平均値より5%以上高い正答率になっています。問題形式別では、「選択式」「短答式」では、全国平均を上回っているものの、「記述式」では、全国平均よりやや低い結果となりました。

#### 質問紙より

- ・「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した児童の割合が全国に比べ、とても高くなっています。
- ・「国語科の学習が得意」「好き」と回答した児童の割合が全国に比べ、低い結果となりました。また、「算数科の学習が得意」「好き」と回答した児童も、国語科と同じく全国に比べ低い結果となりました。「理科の学習は得意」と回答した児童の割合は全国を上回ったものの、「理科の学習が好き」と答えた児童は全国を下回りました。
- ・「ICT機器の使用頻度」に関する項目では、全国と比べてとても低い結果となりました。特に、「友だちと考えを共有したり比べやすくしたりする」の項目では、肯定的意見が全国と比べ低い傾向があります。

### 【指導の充実に向けて】

- どの教科においても、児童自らが主体的に考え、友だちと話し合い、深い学びができるよう努めます。また、カリキュラムマネジメントの視点を大切に、教科横断的な学習を通して、つきたい力の定着と活用に努めます。
- 校内研究を中心に「対話的な学びを通して深い学びを求める授業づくり」に取り組みます。
- 意欲を高めたり、見通しをもって学習に臨めたりするように「めあて」を提示し、理解したことや自分の考えの変化、めあての達成度などを「振り返る」活動を充実させます。
- 基本的な計算問題や漢字練習に継続的に取り組みます。また、問題を解くだけにとどまらず、計算式が表していることや、漢字の意味などをしっかりと理解し、応用力・活用力を伴った知識の習得を目指します。
- 調べ学習だけでなく、話し合い活動、まとめ、発表など、学習の内容に合わせて効果的なICT活用を行っていきます。また、職員研修を行うなどし、学年の実態に見合ったよりよい使用方法を検討していきます。
- 「あいさつ」「もくもくそうじ」「きく」の3つの約束を大切にしたり取り組みを一層推進し、「自分も人も大切に」する児童の育成に努めます。

## ◇強み・弱みレーダーチャート◇

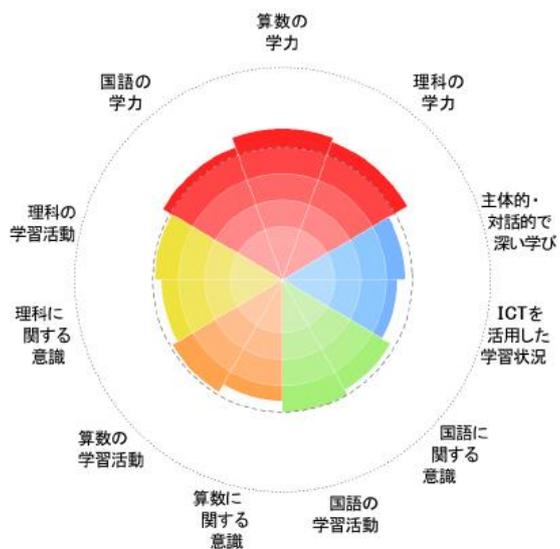
※本校の傾向を見るためのものであり、他校と比較できるものではありません。

※グラフは全国平均正答率と本校平均正答率のポイント差に基づいて作成しました。

破線より外側の場合は強み（成果が現れている項目）、内側の場合は弱み（改善を検討する項目）と捉えることができます。

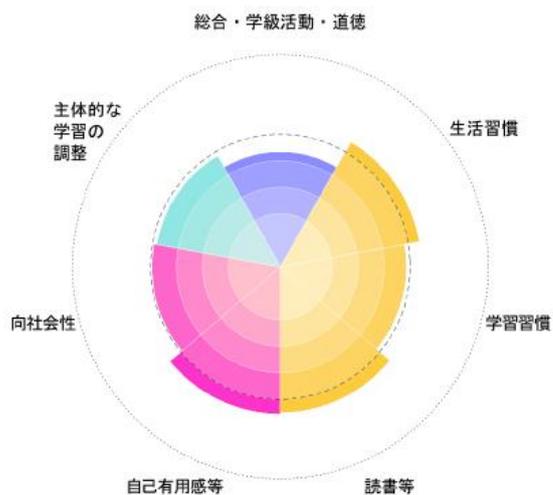
### [教科を中心とした学力・学習状況]

(全国基準)

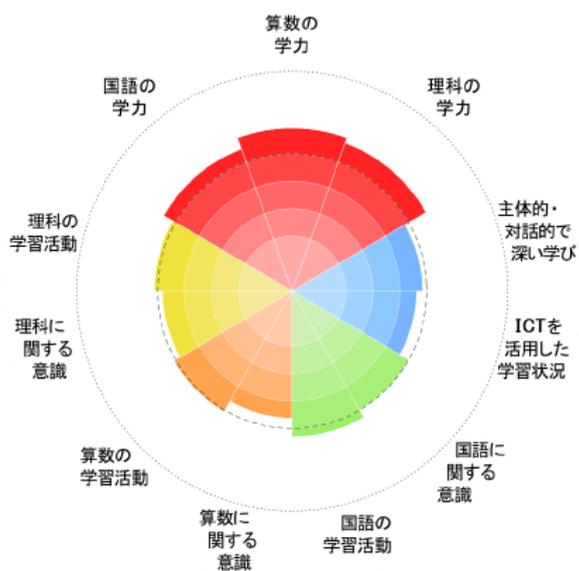


### [その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）]

(全国基準)



(滋賀県基準)



(滋賀県基準)

